

(肺「サ」症)を中心に、局所肺の換気異常の程度を核医学的に半定量的に評価検討した。対象は肺「サ」症11例、気管支拡張症1例、過敏性肺臓炎1例、対照例4例の計17例である。方法は、Xe-133 ガス吸入後、平衡状態から洗い出しを行い、50%洗い出し時間 $T_{1/2}$ 、および平均通過時間 $T_{A/H}$ を、肺全体、左右の肺、左右の肺を上中下の3領域に分割しそれぞれにつき算出した。肺「サ」症II期+III期群では対照群、I期群に比べ $T_{1/2}$ 、 $T_{A/H}$ は有意に延長した。過敏性肺臓炎、気管支拡張症の症例でも局所肺の換気異常を捉えることができ本法の有用性が示唆された。

9. 肝胆道シンチグラフィにおける胆嚢収縮剤投与後の逆流所見について

伊東 久雄 村瀬 研也 下野 礼子
小糸 光 最上 博 棚田 修二
飯尾 篤 濱本 研 (愛媛大・放)

肝胆道シンチグラフィにおける胆嚢収縮剤投与後の逆流所見は237例中28例(12%)に認められた。胆管X線像の得られた25例中、10mm以上の総胆管の拡張は13例(52%)、明らかな総胆管の狭窄は6例(24%)に認められた。RIの通過時間の遅延は25例中17例(68%)に、RIの総胆管へのpooling所見は25例中7例(28%)に認められた。DICにおける胆嚢収縮剤投与後の総肝管径の増加所見は肝胆道シンチグラフィにおける逆流(++)に対応するものと考えられた。逆流(++)所見は総胆管径が境界領域から軽度の拡張を示す症例において、総胆管末端部の通過障害を示す有用な所見と思われた。

10. ^{99m}Tc -DTPA-HSA (テクネチウムヒト血清アルブミンD)による精索静脈瘤の検出

大塚 信昭 福永 仁夫 永井 清久
森田 浩一 古川 高子 村中 明
三村 浩朗 柳元 真一 友光 達志
森田 陸司 (川崎医大・核)
小野志磨人 西下 創一 (同・放)

精索静脈瘤の検出のため、 ^{99m}Tc -HSA-Dによる陰囊シンチグラフィを男性不妊および視・触診で精索静脈瘤

が疑われた14症例で施行した。確診例の9例全例で患側陰嚢部にRIの異常貯留が認められ、術後症例を除く陰性例4例は、全例サーモグラフィでも陰性であった。本剤は ^{99m}Tc -HSAに比し病巣対軟部組織比が高く、膀胱の描出がない点で優れ、副作用もなく、精索静脈瘤の検出に有用であると考えられた。

11. ^{99m}Tc -HSADのRIアンギオグラフィにおける利用

山田 雅文 棚田 修二 最上 博
井上 武 田中 伸司 伊東 久雄
河村 正 木村 良子 飯尾 篤
濱本 研 (愛媛大・放)

Bifunctional chelate 剤であるDTPAを利用した ^{99m}Tc 標識ヒト血清アルブミン(^{99m}Tc -HSAD)が、新しいRIアンギオグラフィ用製剤として開発されたので、その臨床的有用性を検討した。対象は末梢循環異常、腫瘍等の22例(23検査)であり、19例(20検査)で有効性が認められた。閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤、精索静脈瘤、下肢深部静脈血栓症で有効例が多く、また全身状態が悪く侵襲性の高い検査ができない症例で有用であった。

^{99m}Tc -HSADは、RIアンギオグラフィ用製剤として有効と考えられた。

12. Varicoceleの核医学診断について

最上 博 山田 雅文 山本 昌也
酒井 伸也 田中 宏明 藤井 崇
伊東 久男 片岡 正明 棚田 修二
濱本 研 (愛媛大・放)

Varicoceleの核医学診断の有用性について検討を行った。対象はVaricoceleが疑われた33症例中、Dynamic imageとStatic imageにて検討された29症例、32病変(左側26症例、両側性3症例)であった。核医学検査のSensitivity 83%、Specificity 100%、Accuracy 84%であった。Static imageでの病変への集積の程度を大腿部の血管の集積と比較して4段階に分類した。Dynamic imageではString signの認められるものを陽性とした。Static imageでの集積の程度は、理学的所見のグレード